

NEXT STAGE

第1号

文責：進藤拓歩

《研究主題》

児童生徒の「学び」と「学んだことの活用」を生み出す授業づくり
～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～

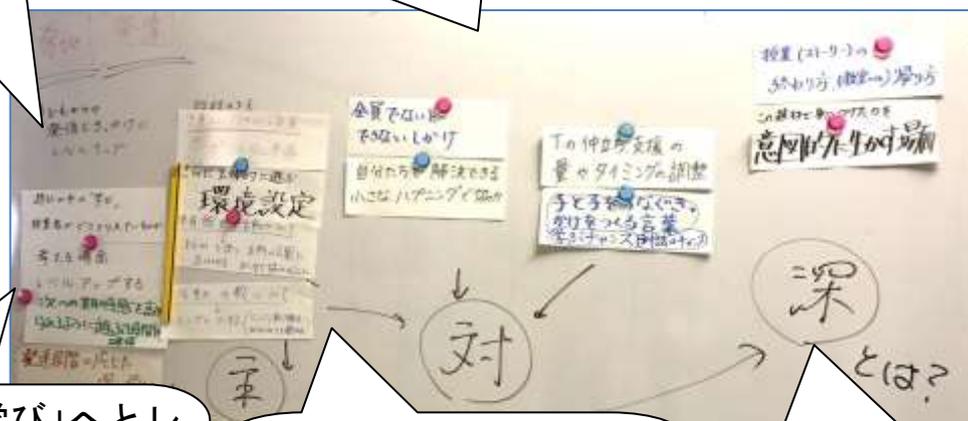
7月5日に、第1回全校授業研究会を行いました。「主体的・対話的で深い学び」「観点別学習状況の評価」の2つを柱にした研究の中で行った初の全校研でした。協議や指導助言で話題になったことを以下に示します。

小学部のみで実施している「遊びの指導」ですが、他学部のみなさんも、豊かな発想で御自身の実践につなげてください。

「遊び」の中の「学び」を、教師はどう捉えている？

ハプニングに対して、自分たちで協力して解決していけるように。

次時につながる授業の終わり方→「学び」をつなげていく。



「深い学び」へとレベルアップを！
そのための発達の理解を！

一コマの活動の数と内容を検討→更に「主体的・対話的な学び」へ。

教師が児童同士をつなぐ→対話的な学びのチャンスをつくる。

北島指導主事からは、次のような御助言をいただきました。

早急に正解を求めるのではなく、これまでやってきたことを、「主体的・対話的で深い学び」「観点別学習状況の評価」という新しい視点から、「意味づけ」「整理」してみてください。

児童の変容のまとめについて、観点別の「評価」を重視するあまり、「観点別の評価ありき」にならないように。観点別の「実態把握」も大切にしてください。

次回は、先日の職員会議で話題になった、「主体的・対話的で深い学び」と「観点別学習状況の評価」との関係性について考えてみます。